

為天」の中に全部入っていて、それこそ一番はじめの「乾は元日に亨る。貞きに利ろし」ということが本当に分かれ、そのままリーダーの心得ということになると思います。

元亨利貞の説明は私自身、一番時間がかかりましたので、伊與田先生にぜひ説明をお願いしたいと思えます。

伊與田 「元亨利貞」は易の根本です。この言葉は非常に奥が深い。一つひとつの文字にいろいろな解釈がありますし……。安岡先生は、この四つの言葉は「元」に帰一すると書いています。

「元」は時間的には「はじめ」、空間的には「もと」、全体的には「まっつき」という意味がある。

「亨」はよく亨るといふことで、途中

で屈しない。「利」は稲を刈る刃物のことでよく利く、役に立つ。「貞」は一時的に役に立つても駄目で終始一貫性がなくてはならない、ということです。天地万物を通ずる生成化育の働きはどこまでも進行して、停滞休止するものではないということですね。

竹村 リーダーたるもの、正しいことを固く守って発展していくことが大事だという教えでもありますね。

伊與田 そうですね。竹村 私は「元亨利貞」の後に「出で雨を降らせる大いなる循環で、「品物

を流く」というのは、一人ひとり、一品一品を生かすことです。

「雲行き雨施して、品物形を流く」という言葉もリーダーの心得として大事な教えだと思えます。「雲行き雨施して」とは先ほど申し上げた雲を呼んで雨を降らせる大いなる循環で、「品物

形を流く」というのは、一人ひとり、一品一品を生かすことです。例えば経営者であれば従業員一人ひとりの能力、生きがい、徳性、持ち味を最大限に發揮して幸福感を味わわせてあげねばならない。「易経」にはそういうことが繰り返して説かれています。

伊與田 上に立つ者の条件として僕が竹村先生のお話の一つ付け加えると思うと、次に大切なものはやはり謙だと思う。「易経」でいうところの「地山謙」です。

竹村 「地山謙」には真のリーダーのあり方が説かれていますね。その名の示すとおり上が地で、下が山になっています。山のほうから自ら快く地の下にへりくだっている状態を言っているわけですね。

伊與田 はい。勢いある乾であればあるほど、謙でなくてはならない。将たるものにとって忘れてはならない大切な条件だと思います。

竹村 そのことは先ほどの「坤為地」と組み合わせるとよく分かるように思えます。

きょうはいろいろなことに気づかせていただき、また宿題をたくさんいただきました。ありがとうございます。

「易経」は指導者にとって必読の書であると改めて実感しました。

伊與田 いやいや、こちらこそ。忘却の彼方に行っていたのを、竹村先生に引き戻していただきました。

竹村 私の話に黙って耳を傾けてくださった伊與田先生の姿勢は、まさに「地山謙」そのものと感動しています。

月刊「致知」を贈って、贈られて

読者の皆様から寄せられたメッセージを紹介します。

『致知』
ものがたり
その5

石郷さんは、五人姉妹の長女。十歳以上歳の離れた一番下の妹さんへ、未っ子は甘えてばかり、もつと「致知」を読み素晴らしい方々の生き方を学んで欲しいとの思いから贈呈をされました。

『致知』を読み始めたのは四、五年前。ぎっかけは、親友のお嬢さんが岡山木鶏クラブの熱心な会員で、その方の勧めによるものでした。それ以来、私は大好きな『致知』を毎号隅から隅まで読み尽くします。特に「巻頭の言葉」はいつも心に残り、趣味の仲間に知らせたり、読み終えた『致知』を、社会人となった孫に、往復一時間歩いて届けに行っています。

岡山県岡山市 石郷詩南子様

あなたも『致知』を読む喜びを、あなたの大切な方に贈りませんか？ あなたからの、心のこもったメッセージを添えてお届けいたします。

『致知』ギフト

ギフトのお申し込み方法は、81頁をご覧ください。